

ははれっど

2017
第 36 号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

私たちの法人、
事業所をより
知っていただく
ために

●トピックス

就職者の会を開催しました

●食を通じて地域とつながる

当店イチオシ！クリームパン!!

●「福祉って何？」番外編

武蔵野大学PRに紹介

●ワンポイントアドバイス

春のうつにご用心

カフェで使える
クーポン付き
⇒5ページ

特集

私たちの法人、事業所を より知っていただくために

社会福祉法人武蔵野では、特別支援学校などに通う高校生を対象に、卒業後の進路とともに考え、さらなる成長を目指し、積み上げていくためのさまざまな機会をつくっています。



障害者支援部門では、ご利用者のライフステージに応じた様々な福祉サービスを各事業所で提供しています。どのサービスも利用を希望される方が必要とする時にいつでも利用できるように、また、多種多様なニーズに応えられるように、常時支援内容を整え、対応しています。

事業所のご利用を検討し、大切なホ

スティックコーヒー
の詰め作業が
得意です！



温かくて
おいしい給食を
届けます！



イント（現在のライフスタイル、将来的に望む暮らし方など）を押さえ、具体的にイメージしていただくために、年間を通して学校関係者や特別支援学校や学級の生徒さんたちの保護者に「見て、聞いて、感じてみる」機会として、説明会や見学会を開催しています。障害者支援サービスに関心のある市民の皆さまの参加も大歓迎です。また、特別支援学校に通う高等部の

1・2年生を対象にサービスを肌で感じていただけるよう「夏休み通所体験」を、そしてその当日には、保護者向けに「給食試食会」²、個別の希望に応じた内容での「事業所見学ツアー」³、「個別相談」⁴など随時開催しています。

一連の流れをイメージしていただきながら個別に疑問や質問に細やかに回答し、理解が深まるようにしていきます。卒業後も学校で学んだことを生かしながら、生活意欲を高めて自立機能を向上させていくことで、将来的には自立した生活を目指していくことを念頭においています。

平成28年度から、連続ミニ講座も開催しています。講座のテーマは、卒業後の進路に限らず、世代を限定しないで、身近な課題に焦点を当てています。

それぞれの
「得意」を活かして
働いています。



実践経験が豊富な講師にお願いしていますので、講師と参加者の距離が近く、少人数で学ぶ機会としてこちらも好評をいただいています。

- 1 特別支援学校の夏休み期間中に、障害者支援部門の事業所で実際に利用体験をする。高等部1年生は1日、高等部2年生は2日間の体験利用を行う
- 2 同じメニューの給食を試食
- 3 各事業所の特徴や質問・疑問に答える機会の設定
- 4 内容は限定せず、多岐に渡る相談を受け付けている

■ 説明会・体験会 ■

4-5月

7-8月

10-12月

高校1年生

法人利用説明会
(教職員向け・
保護者向け)夏休み
通所
体験保護者向け→
事業見学ツアー
給食試食会

高校2年生



現場実習

高校3年生

現場実習

11月頃

学校進路面談

今年の法人説明会は
5月15日(月)
10:30~12:00
市役所西棟4階 412会議室
で開催します。



連 続 ミ ニ 講 座

主に特別支援学校等を利用する当事者の家族・保護者に向けて、継続的に実施する小規模な講座や勉強会。

1月31日に開催した連続ミニ講座①の概要は、障害のあるお子さんをお持ちのご家族を対象に、「将来を見すえて、今できること。～成長を促すはたらきかけ～」をテーマに、自閉症や発達障害の方たちの支援を専門とする臨床心理士を招いて開催しました。

質疑応答の一場面から

保護者：母に対して質問をし続けるので、困ってしまうことがあるがどうしたらいいでしょう？

講 師：ずっと話をし続けることは大変なので、「バスに乗っている時はダメ」とダメな時間を明確にする一方で、今はOKという時間を作ってあげましょう。ずっとしゃべり続けるというのは、社会のルール上ダメなことなので、それを覚えていく機会にするといいでしょう。

このように、講師とのやりとりを通して、実際にアドバイスをいただきながら、学びを深めることができました。

参加者のアンケートから ※一部抜粋

- ・障害のあるなしにかかわらず、親の役割を教えて頂き、これからの子育て、自立に向けて親としての努力をしたいと思います。
- ・子どもの年齢が上がってきて、子ども自身も自立に向かっていますが、やはり親の役割が大切なんだと再認識しました。幼少期に見られた状態が、当時はわからなかったのですが、意味のあることだったのだとわかりました。

第2回連続ミニ講座は3/15(水)「はたらくオトナになるために」をテーマに行いました。



近い将来、 なりたい自分になるために



十年一昔とはよく言ったもので、世界はもとより私たちの社会も大きく変容してきました。私たちの生活もより便利で効率的になり、またインターネット環境の広がりからスマートフォンで、知りたいと思えばその日その時その場所で情報を得ることができる時代になりました。

障害者福祉においても、社会保障の根幹からの見直しを受けて、福祉制度は大きく変容し、これまでの福祉観にあるような、受け身的な（施される）サービスから、「必要なサービスに必要なだけ選択する」ことが普通になりつつあります。したがって情報を受ける側のご希望も、年を追うごとに高くなり、情報を発信

する側もこれまで以上の創意工夫が求められます。

私たちだけでなく他業種も含めて、このような状況を押さえて利用者側が必要としていることに対して、敏感に察して汲み取り、適切なタイミング、適切な内容をお届けすることが求められています。

今回の特集で組まれている一連の流れや動きは、情報の受け手である方々に平等にかつ偏りなく情報が行き渡ること、そして、これからの長い人生を歩んでいく過程で、その時に必要な福祉サービスを変更、選択していく際の一助になればと願っていることです。

今後も社会の背景や制度の変化に



応じつつ、時流に合わせた情報の発信をしていきます。画一的でない多様な価値観とニーズにこえるべく、提供する福祉サービスの質、量とも同時に高め、加えて適切な情報を的確に伝えていくことを続けていきたいと思えます。

法人利用説明会での声

保護者のお話が聞けてとてもよかったです。できたら他の施設を利用されている方のお話もうかがえたらありがたいです。



生活介護事業の拡大は難しいとのことでしたが、少しでも実現できたら非常にうれしいです。



就労、入所、一生を通じて関わっていただける場を感じました。



お問い合わせ

ワークセンター大地

●武蔵野市吉祥寺北町4-11-16
TEL 0422-54-5112

担当 草野泰治



新しい仲間も加わりながら交流を深めます

ジョブアシストいんくるが開設されてから3年が経ち就職者も29名になりました（平成29年3月1日 現在）。いんくるを卒業した方から「一緒に就職を目指した仲間はどうしているのでしょうか」という声をきっかけに「就職者の会」を開催することになりました。昨年2月から定期的に回を重ね、今年2月で4回目の開催です。金曜の夜、勤務後にもかかわらず12名の方に参加いただきました。

opics

トピックス

就職者の会を 開催しました

皆さんと食事を一緒にしながら、自己紹介を兼ねて近況報告をします。

「職場の仲間が優しいです」「会社の親睦会で特技を披露する場があり、喜ばれました」「差し入れのお菓子を仲よく食べます」「休みの日に時間があれば利用してください」「映画の映像に会社のビルが出ました」など、会社のことを知ってもらいたいという気持ちは日頃の苦労や経験が自信につながったからではないでしょうか。職場の方々とつながり働く様子は今の居場所であるように感じました。「疲れたー」と皆の前で本音を出せるのもこの会のよいところです。食後はミニゲームを行い楽しいひとときになりました。

ジョブアシストいんくる／小池 陽子

ジョブアシストいんくる

TEL 0422-50-1170

東京都武蔵野市中町1-28-10

→地図
P.8-A



素材にこだわり、平飼いの卵と低温殺菌牛乳を使って毎日手作りしています。素材に自信があるので香料は使いません。ほっとする甘さとコクのあるカスタードクリームは年代を問

お客様からよくいただく質問が「お勧めのパンはどれですか？」です。季節や、お昼用なのかおやつ用なのかによつて、お勧めする商品は変わりますが、当店のイチオシはクリームパンです。

（ワークセンターけやき
「カフェ・ル・ブレ」／西村 真代）

ふれっそ36号をご覧いただいた方に特典をご用意しました。期間中500円以上ご利用のお客様にプチスイーツをプレゼント！左下のチケットをお持ちください。スタッフ一同お待ちしております。

食を通じて
地域とつながる

当店イチオシ！
クリームパン!!

カフェ・ル・ブレ

→地図
P.8-B



贅沢素材のクリームパン 190円

わす、ご好評をいただいています。シンプルに美味しいものが食べたい時は、どうぞ当店のクリームパンを召し上がってください。

「福祉って何？」

番外編

いつもは、まちの人に「福祉って何？」をお聞きしているコーナーですが、今回は職員に聞いてみました。

● 障害者支援施設で働いてみてどうですか？

想像していたよりも楽しいです。ご利用者と会話をする、一緒に出かけるなど、日常で楽しいと感じる瞬間がたくさんあります。辛いことも乗り越えてきたうえでの「楽しさ」だと感じます。ご利用者の成長を感じたり、行動や気持ちの変化が見えたりした時にこの仕事をしている充実感があります。

デイセンター山びこに入職して3年目になる笠原匠充職員が、母校である武蔵野大学のPR（TRAIN MESSAGEとして、JR線内の車内広告に掲載）に活躍する卒業生として披露されました。学生時代の重症心身障害児施設での保育実習が障害者福祉の分野で働くきっかけになったようです。



TRAIN MESSAGE!
2017年3月号
Vol.155

世界の幸せをカタチにする。
Musashino University
武蔵野大学

地域に福祉をもっと根付かせたい。
真剣にやり続ける経験が自分の財産になります。

Q. 現在のお仕事について教えてください

笠原 匠充 (Kazuhiko Takemura)
2015年 教育学部福祉学科 卒業
障害者支援施設で働いてみてどうですか？

Q. これから社会に出ていく学生にメッセージをお願いします

現在、地域に福祉をもっと根付かせたいという思いから、センター利用者のみなさんや地域の福祉関係者に働きかけています。地域の方々の「人」が生き生きと動いてくれることが、私たちの目標です。皆さんの笑顔が、私たちの目標です。

センター利用入試インターネット出願受付中! C日程3月13日(月)まで



車内広告の前で1枚

● TRAIN MESSAGE で「地域に福祉をもっと根付かせたい」と言っていますが、目指すべき地域社会とはどんなものですか？

ご利用者の手仕事作品がイベントなどで販売されるのではなく、地域に当たり前にあって、みなさんの手に届くことが理想です。それは障害のある方が地域で暮らすことが「特別」なことではなく、あたりまえの社会になることと言えます。

● 武蔵野大学 TRAIN MESSAGEに掲載されてどう感じましたか？

はじめに話を聞いた時は冗談だと思いました(笑)。でも社会福祉法人武蔵野をアピールできる良いきっかけになったのではないかと思います。

(聞き手 デイセンター山びこ 佐藤 直子)

● 職場からひと言

笠原さん、トレインメッセージに掲載されて何か変化はありましたか。

君が今の仕事の中で確かな手ごたえを感じているのが伝わって、嬉しかったです。

さて、今年度は法人恒例の、3年目職員による実践発表会が控えていますね。自分の実践をどう言語化し人に伝えるか、自分に厳しく向き合いながら、さらにもう一段階支援者としての成長を果たしてもらいたいです。私も真剣に指導します。覚悟!

(デイセンター山びこ 施設長 荒木 大輔)

● 大学からひと言

本学卒業生が活躍していると聞きつけ、取材をさせていただきました。

貴法人の運営されている施設は本学武蔵野キャンパスからも近いので、このようにご縁がつながっていくことを期待しています。

(武蔵野大学 企画・広報課)

人の幸福を

支えていきたい

桜堤ケアハウスデイサービスセンター

大田 節子

→地図
P.8-C



デイサービスでの昼食風景

映画好きの父に連れられ私が初めて観た映画は、「ドレミの歌」「エーデルワイス」などの美しいメロディーで綴られた『サウンド・オブ・ミュージック』でした。第二次大戦中ナチスの占領下のオーストリアで、歌と家族愛で人々を励ましてきたトラップファミリー合唱団のミュージカル映画です。幼い頃から歌が好きだった私は、主人

公マリアの歌声が好きになり、またマリアがトラップ家の反抗期の子もたち前に向きに関わり、他者（子どもたち）を信頼し続ける姿に憧れました。

私が初めて就いた仕事は保育でした。

保育士として毎日歌って踊って制作して、子どもたちの素晴らしいエネルギーを感じながら仕事に取り組みました。保育の仕事は楽しいことばかりでなく、子どもをとおして家族関係、地域とのつながり、また社会の動きに考えさせられることも多くありました。初めての子育てで、一人だけで不安や悩みを抱え込んでいるお母さんや、一人で産み育てながら働いているお母さんの話を聴き、言葉に表れない気持ちを想像し、できることから関わりを持ちました。

13年前から仕事は、高齢者の通所介護施設に変わりましたが、目の前の困っている人に対しての「役に立たい」という姿勢は、ずっと変わりありません。マリアのように明るく強い意志を持ち、これからも人の幸福を支えていきたいと思っています。

小さな

視点の変化

ワークセンター大地

井上 雅義

→地図
P.8-D



飴を入れ、仕上がった商品。
向きを揃えて並べて下さっています

私は、ワークセンター大地で働きはじめて5年目になります。現在、所属する活動室では受注作業を中心に作業支援を行っています。

以前は、受注作業に対して「納期もあり忙しい、大変」といったイメージがありました。しかし、実際に受注作業を行うなかで、自分自身の小さな視

点の変化から受注作業に対する考え方が変わりました。そのきっかけは、作業をしているなかで、「○○さんの分も手伝ってあげるよ」「ありがとう」「みんなで頑張って終わらせようね」などの発言です。ご利用者同士が自発的にこのように声をかけ合って、周りと協力しひとつの作業を終わらせていたのです。このようなお互いを思いやる自然なコミュニケーションが生まれていることを肌で感じ、作業のなかでの楽しみや喜びを感じることができ、受注作業の醍醐味をご利用者から気づかせてもらいました。

小さな視点の変化が大きな考え方の変化に繋がる。今後は、ひとつの考えに捉われず、幅広い視点を持って日々の支援をしていくことが大切だと考えました。



しかし歩き出すと岩のでこぼこに利用者は難渋し、隊列も長くなりました。本当なら行程の見直しが必要な状況でしたが、逆に目的地に向かおうという気持ちばかりが強くなりました。「山いつ終わる？」と折り返すところで利用者が言いました。歩き始めて6時間たっていました。下りの道はみるみる暗くなっていき、山道を抜ける前に真つ暗になってしまいました。もう歩くことは危険でした。しかしヘッドランプは必要ないと思つて宿に残してきました。

その夜、山岳救助隊員でもある宿の主人から、ひとつ間違えば遭難事故が起きた。皆さんの山登りは謙虚さがなくと厳しく叱られました。その通りでした。その頃の私は仕事では勇んでいました。この「山歩き」に過剰な自己評価がありました。事故にならなかったのは天佑。「二生懸命」の中に潜んでいた慢心。若い頃のこの失敗は私の糧になっています。

（理事長 安藤真洋）

ワンポイントアドバイス

自律神経・免疫・ホルモン・情動は連動しているため、気温や日照などが不安定になる春は、自律神経が翻弄され、体調も不安定になりやすくなります。気候の変化や社会環境の変化などが、体や心にストレスを与え、メンタルヘルスに不調をきたし、季節性のうつや情動不安を訴える人が比較的多い季節だと言われています。「わたしは大丈夫」「メンタルは強い方だ」と思っているも、心身は無理をしているのかも知れません。

もし、心配なことがあったら、医療機関以外でも市内には相談できるメンタルヘルスケアの窓口があるので、一人で抱え込まないで、連絡してみましよう。

ゆとりえ 西川 洋子／

新たな年度を迎え1か月が経ちました。今回は新生活を迎える方々の準備に向けて、お役に立てる情報が発信できればと特集を組みました。実際の見学も可能です。ぜひご覧ください。(う)